和教時報

2019年６月15日（土）発行　第1950号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

和教組ゆるキャラ みばん

みなさんようこそ

新組歓迎会開催

和歌山市支部

五月二四日（金）の夜に新組歓迎会を開催しました。他郡市から和歌山市に異動された方や昨年組合に加入してくださった方が来てくださり、新しいつながりが広がりました。最初は緊張もありましたが、しだいに打ち解け、自己紹介ではそれぞれの方がたくさん話をしてくださり、大いに盛り上がりました。

お楽しみコーナーでは、予言のトランプマジックでたくさん驚き、抽選会で一喜一憂のドキドキを感じ、とても充実した時間になりました。おひらきの後も、テーブルごとに話が弾んでいました。参加してくださったみなさまお疲れ様でした。

五〇人の大合唱♫世界中の子ども達が♫

東牟婁支部

五月一七日（金）太地町生方をはじめ、一七名の未にある「いさなの宿『白組合員など、最大収容人数鯨』」に、東牟婁地方の青いっぱいの五〇名が参加し年教職員達がつどい、青ました。年部主催、恒例の「春の歓迎　各職場紹介の際、みくま交流会」が開催されました。職場で声をかけたり、の分会が歌う♫世界中の子電話で呼びかけたところ、ども達が♫に、参加者のみ今春初めて採用になった先なさんも加わり、大合唱。その後、様々なゲームで楽しみ、「お菓子まき」で盛り上がりました。初めて参加した先生は、「とても楽しかったです。また来年もぜひ参加したいです」と語ってくれました。

おいしいスイーツと、えがおと、はずむ会話

（女性部大会）

ピンのスポット 378

沖縄県民が昨年九月の知事選挙、今年二月の県民投票、四月の衆議院補欠選挙と三度にわたって「辺野古新基地建設NO！」の明確な意思を示した。にもかかわらず、政府は土砂投入を続けている。市街地のど真ん中にあり、世界一危険な基地と言われる「普天間基地」の返還のためには辺野古移転以外に選択肢はないと説明しているが、本当に選択肢は他にないのか？

誰でも一番わかりやすく、納得できる方法がある。普天間基地の代替はアメリカ国内でと要求すればいいだけである。トランプ大統領のご機嫌伺いばかりで、何を言われてもYESとしか言えない安倍政権に七月の参議院選挙で審判を下し、さよならしよう！

（T）

教職員のための自動車保険を選んでますか？

教職員が「人身事故」を起こしてしまったら？

教職員が「人身事故」を起こした場合、身分にかかわるおそれがあります。禁固刑以上の刑となると執行猶予がついても、地方公務員として「失職」したり、教員免許状が「失効」したりします。

交通事故は突然おこる

今学校現場では、時間外勤務や休日出勤も増え、休憩時間も十分に取れないといった恒常的な長時間過密労働の実態があります。そんな中、自動車での通勤途中にヒヤッとするようなこともあるのではないでしょうか？

事故なんか起こさないと思っていても、事故はいつ何時起こるかわかりません。

全教自動車保険とは？

全教自動車保険は教職員の事故対応に30年の実績があります。重大事故での事故対応では、民間損保会社（現在は東京海上日動）と提携していることを活かし、代理店・東京海上日動・組合・弁護士等がチームを作り、「被害者救済・加入者保護」の立場で**教職員の身分に直結する「刑事責任」も視野に入れた事故対応を行います。**

また24時間対応の全教専用の事故受付フリーダイヤルを持っており、教職員の状況を知り尽くしたオペレーターが事故時の不安に対応します。

ぜひ一度、見積依頼をしていただき和教共済までご連絡下さい。

日教弘教育賞

子どもたちの未来のため、教職員の貴重な教育研究実践論文を表彰するとともに、広く全国の学校に紹介し、教育の向上発展に寄与する目的で日教弘教育賞実践論文の募集を実施しています。

◆９月末日　日本教育公務員弘済会和歌山支部　必着

◆支部推薦・審査および表彰

日教弘和歌山支部選考委員会において選定した２～３編の論文を、日教弘本部へ推薦し、本部で行われる審査委員会において審査します。

最優秀賞（２編）、優秀賞（６編）、優良賞（８編）、奨励賞が決定されます。

なお、本部推薦以外の論文についても和歌山支部より、優秀賞（数編）を選考します。

※募集要項、論文の書き方は『日本教育公務員弘済会』のホームページをご覧ください。

http://www.nikkyoko.or.jp/

公益財団法人　日本教育公務員弘済会和歌山支部　TEL073-421-7881

教員採用試験近づく！合格めざしてあとひと踏ん張り！！

「あすの教師塾2019」今後の予定

日　程	時　間	内　容	場　所
６月22日（土）	13:30 ～ 16:30	小論文②	和歌山
23日（日）	13:30 ～ 16:30	小論文②	田　辺
７月27日（土）	13:30 ～ 16:30	教育法規②	田　辺
28日（日）	13:30 ～ 16:30	教育法規②	和歌山

☆和歌山会場は和歌山県教育会館（和教組本部）、田辺会場は西牟婁教育会館（西牟婁支部）です。

☆受講希望の組合員さんは本部・支部まで連絡して下さい。

We Love 憲法
～5月の風に～
沖縄の民意を踏みにじる敵は…

和歌山市市民会館市民ホール
2019.5.18

和教組書記次長　岩田　美和

心地よい五月の風をあびながら、沖縄基地問題を同じ日本国民として見過ごせない、という人たちが会場を覆いつくしました。

この国は戦争に負けてから、二度と戦争をしないと誓った憲法がある。しかし、基地があるがための恐怖や新しい基地を作ろうとする大きな敵と毎日闘っている方々がいる。その敵は「敗戦」を「終戦」と言い、オスプレイの「墜落」を「不時着」と言い換え、自分たちのしてきた失敗を無かったことの様にしたいのだ。名護市長だった稲嶺氏は、オスプレイの墜落現場に近づくことも許されなかった。

沖縄は日本へ復帰して四七年、日常はほとんど何も変わらず、異常が続くことは「憲法番外地」なのか。これが今の沖縄の姿だ。

大浦湾の自然破壊は進み、二六二種の絶滅危惧種がいるが、環境省も動かない。軟弱地盤に活断層等も…関西国際空港の地盤沈下は昨年の台風で明らかにされ大損害が出たのは記憶に新しいが、辺野古は広大な滑走路が途中から凹み、海に突っ込んでいく形状だそうだ。そう想定されても、土砂と税金を投入し続けることにどうして黙っていられるか。

「私たちは一人ではない。日本中に仲間がいる」との稲嶺氏の言葉に、一同が頷き、会場が『オール沖縄』となりました。

研究集会2019和歌山の教育　5/11　書道資料館
子ども・生徒が主体として育つ学校・地域

和歌山県国民教育研究所　山野　眞

有功東小学校の神崎先生のレポートは、総合的な学習の時間で、子どもの思いを教師が受け止めながら共に考え、授業をつくっていく実践でした。しょうがづくりのための畑の開墾からはじまり、栽培、ジンジャーエールづくりと、子どもたちが活き活きと取り組む様子が報告されました。

海南高校大成校舎大成会（育友会）の西田さんの報告は、PTAに地域の方（Community）が加わったPTCA活動の取り組みでした。かつて県立学校再編計画（案）が出たときに大成会は「残そう大成高校」を合い言葉に存続活動をして五万名に及ぶ署名を集めて海南高校大成校舎として残すことができました。ここから、PTCA活動がスタートして保護者と生徒もいっしょに地域の活動に主体的に参加している様子が報告されました。

今年度の研究集会は、地域と関わった実践報告を受けて参加者全員で議論してきました。

参加者からは、「ワクワクする授業づくり」「学校・生徒にとって地域の重要性がわかった」などの感想が寄せられました。

夏期交渉
多忙解消
県教委は削減する施策を具体的に示せ!!

六月六日、教育三者共闘会議（和教組、和高教、教育庁職組）は夏期交渉を行い、三者共闘から七九名（和教組四四名）、県教委から出津野総務課長以下二八名が出席しました。

四月から改悪された部活動手当の問題では、会場から怒りが噴出し、県教委は「国に対して単価アップを求めていく」と答えました。

多忙の問題では、提出を求められたプログラミング教育の年間計画が、一〇連休もあって学校での作成期間が四日間しかなかった問題が発言されました。追及の中で県教委は「今後気をつける」と答えましたが、学校の多忙が社会問題となり、国を挙げて対策が求められている中で、県教委の多忙に対する意識は低すぎると言わざるをえません。学力テスト対策も含め、県教委が「必要」とこだわる施策であっても、削減する施策を具体的に検討すべきです。また、県単独加配など教職員の増員も強く求めました。

育児短時間勤務者を定数外とし取得しやすくすること、出産や子育てに関すること、ハラスメントの問題、臨時教職員の労働条件の改善など、切実な要求も訴えました

夏期交渉は、秋の確定交渉の前哨戦です。今回出された課題は、引き続き確定交渉で実現を目指していきましょう。

連絡帳で保護者に何を伝えるか？

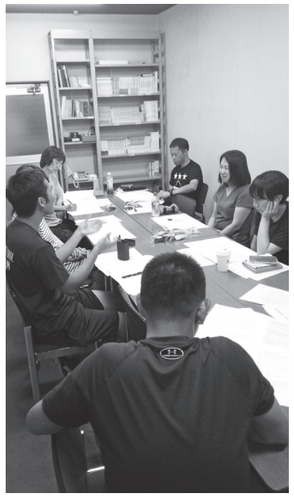
和歌山さくら支援学校分会　寺西　有里

六月一日に障害児教育部の講座を開催しました。

障害児学校において、「連絡帳」というものには多くの場合、日々のやりとりの手段のひとつとして、教師と保護者が文章で記入できるスペースが設けられています。

今回の学習会では、その「連絡帳」について、参加者それぞれの今までの経験や連絡帳に対する思いを出し合いながら、話し合いが進められました。

特に、「連絡帳で保護者に何を伝えるか」ということについて大いに話が盛り上がりました。中でも、事務連絡やその日の活動内容だけではなく、「子どもの成長が感じられるエピソード」を盛り込み、その姿を保護者と共有していくことが大切であり、そのためには、その子の日頃の様子や行動をしっかりと発達の視点で捉えることや、その価値基準となる教師自身の学習の大切さも改めて認識することができました。



その他にも、保護者や子どもに謙虚な気持ちで向き合うこと、細切れで子どもをとらえないこと、教師間で話題を共有すること等の大切さ、また、多忙な現状を改善することの必要性や個別の指導計画の弊害についても意見が出され、大変充実した時間となりました。